

優先順位『幼・老・青・般』で『過疎対策・人材育成・伝統継承』の課題解決へ

狩俣版 SDGs 新規事業計画書 2024

-未来へつなぐ小さな拠点、持続可能な地域づくりを目指して- 2024.1 Vol. 5.8



狩俣まるごと学びの場に



脱炭素社会を目指す



小さな幸せをふやそう



豊かな海を次世代へつなぐ



餅屋システムで経済循環

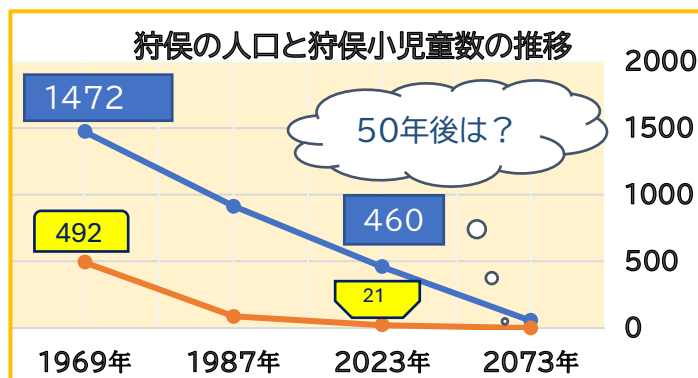


*表紙イラストは、狩俣自治会創立120周年記念式典・祝う会の写真を一部加工したものを記載しています。

狩 俣 自 治 会

◎狩俣地域を『つなぐ』ために、今すべきわかりやすい目標を設定する

狩俣版 SDGs」 → 目標設定 2025 年 3 月



👉 2019 年「狩俣をつなぐ」ワークショップの様子

『狩俣版 SDGs』の目標設定(ゴール)は、2025 年 3 月までの5年間を設定しており「幼・老・青・般」の優先順位と PDCA サイクル(計画・実行・評価・改善)を実践しながら今回で58号になりました。今後は、「過疎対策」「人材育成」「伝統継承」の課題解決に向けた対策を実施していきます。具体的に、「餅屋システム」を活用した空き家対策を郷友会や地域住民・関係人口の協力を得ながら重点的に取り組みます。

やさしい気持ちになれる、**小さな幸せ**があふれる『狩俣』を目指して



① 狩俣をつなぐために、今すべき 7 つの目標を設定しました

- ①【地域の特色を活かし、新しい形のこどもにやさしい居場所を作る】
- ②【こども病院を誘致し、家族や地域にやさしい癒しの場を作る】
- ③【クリーンエネルギーと緑化推進でくらしと環境にやさしい地域へ】
- ④【集落センターを『学び』、『憩い』、『安心』の拠点の場にする】
- ⑤【餅屋システムと6次産業化・協同労働で地域内経済の循環を】
- ⑥【字有地はゾーニング(区分け)し、保全と有効活用の両立を図る】
- ⑦【狩俣まるごとテーマパークで過疎対策・人材育成・伝統継承を推進】

◎なぜ？今『狩俣版 SDGs』(エスディー・ジーズ)なのか？意味はあるの？



②目標を『数値化・見える化』することで分かりやすくする

・2019年、宮古島市主催のワークショップがきっかけで、中高生や青年会と狩俣の未来像と一緒に考えてみました。その時の意見などが、狩俣版 SDGsの原点となっています。

50年後消滅するかもしれない狩俣の現状を少しでも改善すべく、具体的な目標を掲げて数値化・見える化し、狩俣をつなぐことを地域一体となって取り組みたい考えです。

SDGsは国際的に17のテーマを設定していますが、狩俣版SDGsでは、狩俣の課題解決に関連する5つに絞りました。また目標達成(ゴール)を2025年3月までの5年に設定し、スピード感を意識し、自治会長の任期と目標達成時期(期間)を合わせることで、より実践的で行動に責任を伴う目標にしています。

*「SDGs(エスディー・ジーズ) Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。狩俣版では、さらにPDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)を活用し、「ちいさなSDGs」をスローガンに、より身近な実践目標を掲げています。

①【地域の特色を活かし、新しい形のこどもにやさしい居場所を作る

県の「小さな拠点づくり支援事業」で、ツリーハウスを設置、卒業生の還暦メンバーを中心に2期工事が完了、地域の憩いの場となっています。令和6年度は展望デッキを増築予定(愛称:狩俣ファミリア) 現在進化中！まだまだ続きます…



🎉令和3年、小学校内にツリーハウスをつくりました！子どもたちの秘密基地の誕生です。

こども支援プロジェクト

◆こども(0歳~18歳)への具体的支援

- ◆出産準備支援金:2万円(新設) ➡ 出産予定日2か月前に贈呈(狩俣在住条件)
- ◆誕生祝い金:3万円(増額) ➡ 命名祝いまたは定期総会時に贈呈(狩俣在住条件)
- ◆オープンスクール・海外留学などの渡航旅費補助2万円(新設)対象:中高校生
- ◆入学祝い金:5万円 ➡ 小学校入学式で贈呈(平成27年度から実施中)



どうして新しい形のこどもの居場所が必要なのですか？



子どもは地域の宝！子育て環境が良くなると地域活性化につながるからです。

②【こども病院を誘致し、患者や家族、地域にやさしい癒しの場を作る】

-国立宮古南静園・県立こども医療センターと連携した医療と癒しのゾーン構築へ-

◆狩俣(宮古島)の自然と環境を活かした癒しの空間と時間 ➡ 特色ある病院を誘致



① 西平安名崎



② 国立療養所 宮古南静園



③ 宮古島海中公園



④ 宮古特別支援学校



『自然豊かな環境と地域のやさしい気持ちで癒したい』



最先端の医療と、自然豊かな癒しの環境を兼ね備えた病院が 狩俣(宮古島)にあれば 狩俣地域のみならず、国内、海外の多くの「困っている人」の手助けになると思います。

自主財源では不可能な話ですが、国や県、宮古島市、民間の医療機関も含め、多くの関係者の意見を参考にしながら、狩俣の所有する字有地に病院を誘致することで地域医療を確保しさらに賃借料によって新たな地域の財源としての大きな効果も期待できます。

未開発の部分が多く残る宮古島北部地域だからこそ可能な一大プロジェクトです。

こども病院とホスピス(終末医療)を考える

全国各地で少子高齢化が課題となっていますが、今後迎える超高齢化社会を考えるとホスピス(終末医療)も現実を直視すれば避けては通れない課題です。

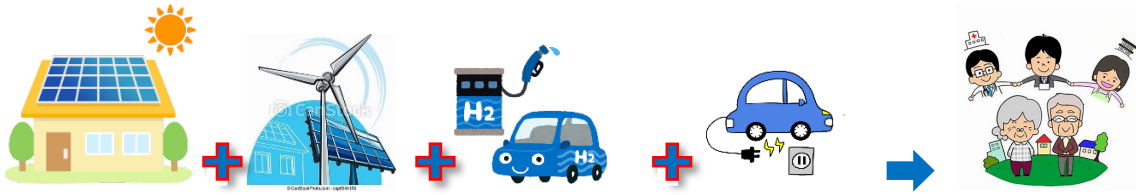
ある識者の説では、狩俣地域は、世界的に見ても特徴的で不思議な場所だそうです。それは、狩俣における伝統的な神事や神歌に紐解かれるようですが、そのような狩俣に、「人生を整える」場所があっても良いのではと考えます。



まずは、医療関係者の意見を参考に「何が一番必要か？」からスタートします

③【クリーンエネルギーと緑化推進で暮らしと環境にやさしい地域へ】

自然エネルギーを活用し『脱炭素と災害に強い地域』の両立を目指す



太陽光発電+蓄電池+PHV+EV+水素 → 家庭(お財布)と地球にやさしい脱炭素地域

宮古島市(狩俣地区)が国(環境省)脱炭素先行地域に決定！

令和5年、脱炭素先行地域に狩俣地区が選ばれ、2024～28年度(5年間)で高補助率を活用した事業が予定されています。PHV+EV+太陽光+蓄電池+水素で、脱炭素を目指す地域として、自治会モデルを、各家庭へシフトしていきます。また環境省が推進するネイチャーポジティブに地域を挙げて取り組み、脱炭素先行地域決定を機に、さらに民間企業の支援に加え、EVライドシェアや電動キックボード導入を促進し、緑化推進(土づくり、モリंगा事業など)や環境問題と合わせることで多角的に脱炭素地域を目指します。

*「ネイチャーポジティブ」(Nature-Positive) 自然生態系の損失を食い止め、回復させていくことを意味する言葉である。社会・経済活動による自然への負の影響を抑え、プラスの影響を与えることを目指す概念です。



『脱炭素先行地域』は狩俣にどのようなメリットがありますか？



国(行政)と民間(企業等)と連携し、地域モデルとして広くPRすることで、幅広い関係人口の増加と、地域への各種補助による大きな経済効果が見込めます。クリーンエネルギーを最大限活用し、ネイチャーポジティブの考えを導入した集合住宅や、狩俣漁港を拠点とする第1次産業の核となる施設を建設していきます。

NP型複合施設を導入

◆農漁業・観光とリンクした施設建設へ

◆狩俣漁港内にNP(ネイチャーポジティブ)型の農漁業活性化の施設導入を目指します。

太陽光発電・風力発電・蓄電池などを組み合わせ災害に強い設備を兼ね備えた複合型施設(モズク培養室+休憩スペース+商業・観光促進スペース+製氷機や冷凍・冷蔵庫など)脱炭素先行地域を視野に、高補助率の複合施設導入で、1次産業の活性化を目指します。



令和8年度(2026)運用開始を目標！関係機関と連携して実現を目指します

緑化と土づくりを推進

◆NP を意識し、生産性の向上を図る土づくり

◆自治会仮置き場の捨てられた枯草や追い込み漁から発生する有機物(魚の頭や内臓・骨など)、品質劣化等で廃棄する養殖モズク・サトウキビのバカスなどを再利用した土づくりとスマート農業をセットで導入し、生産性の向上も目指しながら地域に土を還元していきます。

漂着ごみを環境学習へ

◆狩俣北海岸(ナービダ)を見守る活動展開

◆狩俣北海岸にある全長約 600mの砂浜【通称:ナービダ(長い浜という意味)】には、年間を通じて大量の漂着ごみが押し寄せてきます。この国際色豊かな漂着ごみを、地域住民や観光客・企業研修・修学旅行生に体験・体感してもらう場にしていきたいと考えます。

風力発電事業に協力

◆西辺安名崎に 3 機目の風車導入予定

◆台風や災害に強い風車(出力 300kw)を、民間企業と協力して導入します。台風 14 号(平成 15 年襲来:マエミー)の際に、倒壊した風車跡地(自治会所有地)に令和 6 年 1 月以降、300Kwの風車を導入します。(駒井ハルテック株式会社)

モリンガ事業を推進

◆関係人口や企業と連携した緑化と多角農業

◆耕作放棄地を利活用した緑化推進とスーパーフードと呼び声高い「モリンガ」を地域内で栽培促進することにより、環境問題に取り組む企業と連携しながら、農業体験(農泊)を視野に島内での自給自足(島産島消)およびモリンガ 6 次産業化を目指します。



モリンガは、種から花までほぼすべての部分を利用できることから「ミラクルツリー(奇跡の木)」と呼ばれています。また、ビタミンやミネラル、アミノ酸などのさまざまな栄養素が含まれており、スーパーフードとして注目されています。とくにビタミンAやビタミンC、鉄やカリウムが豊富です。

【実施中】または【検討中】

- ◆国・県・市や民間企業とも連携しながら環境に配慮した新しい取り組み
 - ➔ 化学肥料に頼らない循環型の土づくりを、共働組合や農業法人に業務委託予定
- ◆EV 軽トラや EV 自動車導入(脱炭素関連補助金活用)および電動キックボード導入

④【集落センターを『学び』、『遊び(憩い)』、『安心』の場にする】



地域活動の拠点:狩俣集落センター



大型スクリーンで鑑賞会(子ども会:放課後こども教室)



いきいき健康教室(社協:毎週金曜日)

❓ どうして狩俣集落センターに研修施設が必要なのですか？

👉 地域住民が学ぶ機会を増やし、気軽に便利に利用できる拠点にしたいからです。



狩俣集落センターは、狩俣地域の中心地にあり、自治会をはじめ老人クラブ、青年会、子ども会、消防団、体育協会、交通防犯支部、女性婦人の会や地域サークル活動などに幅広く利用されています。狩俣自治会では今後、さらに有効活用する目的で多種多様な取り組みを展開し、とくに「地域の学びの場」として、利用しやすい環境づくりを目指していきます。また熱中症対策「すだーす(涼しい)」センター、台風接近時の一時避難場所として地域の「安心の場」としても活用していきます



『すだーすセンター』で熱中症対策を実施しました！6/1～9/30

熱中症防止月間

すだーすセンター

今年もやりました！



集落センターでは、冷たいお水とお菓子を用意して暑さを乗り切る環境をご用意しています。クーラーのきいた部屋で お友達とおしゃべりしに来ませんか～？

*2023年は、6/1～9/30(4か月間)実施しました、台風時は、一時避難所として活用します。



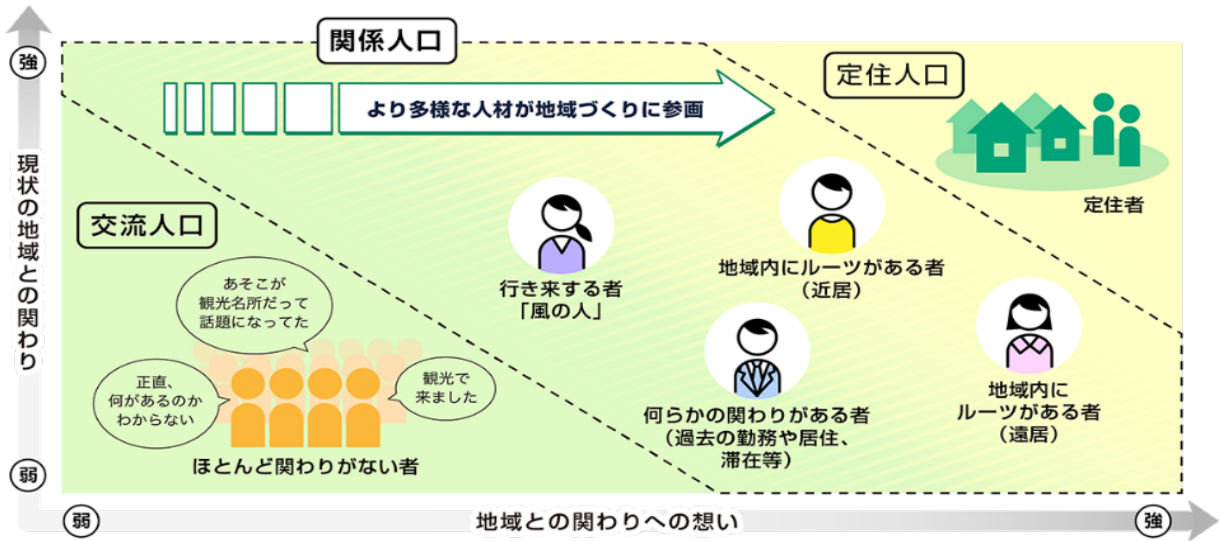
『集落センター調理室を改造！』お弁当配食で活用中！



県の「小さな拠点づくり支援事業」を活用して、県内初の労働者協同組合「かりまた共働組合」が誕生しました！お弁当を高齢者や幼稚園に配食しています。自治会行事や模合などにも対応しています。また狩俣マッチャーズへ惣菜の提供もしています。自治会では、厨房利用者を募集しており、今後多くの方に、集落センターを活用していただきたいと考えています。

⑥字有地はゾーニング(区分け)し、保全と有効活用の両立を図る

狩俣らしさにこだわり、関係人口を増し ゾーニングで伝統の継承とくらしの調和へ



持続可能な地域づくりのキーワード『ゾーニング(場所を区別する)』

「過疎対策」「人材育成」「伝統継承」の3つの課題解決に向けた対策として狩俣をまるごとテーマパークを構想、狩俣らしい伝統を残すスペースと地域をつなぐスペースを区別して関係人口、二地域居住を増やし、リトル台湾を推進する地域を目指します。

7つのゾーニング(区別)について

- ① 文化遺産ゾーン … 狩俣の聖域(ウヤーンが行われていた場所)・立ち入り禁止区域



1990年代まで行われていたウヤーン 不可侵の現存する聖地・聖域 経済循環の期待が大きい西平安名岬

- ② 伝統継承ゾーン … 4つのムトウを中心とした祭祀がおこなわれていた場所など
- ③ 人材育成ゾーン … 狩俣集落センター、小学校・中学校、旧購買本店、旧幼稚園など
- ④ 過疎対策ゾーン … 新規事業を導入したニュータイプ複合型集合住宅(エコハウス)など
- ⑤ 経済循環ゾーン … 西平安名崎や世渡岬・海中公園付近など集落から離れた場所など
- ⑥ 環境保全ゾーン … 環境保全を目的とした大型リゾートホテル等を制限した区域
- ⑦ 暮らしのゾーン … 地域住民が安心して暮らせる、狩俣らしさにこだわった場所

*「狩俣らしさ」を最大限活用！勉強会(ワーキンググループ)を設置して、より具体的に推進！

⑦狩俣まるごとテーマパークで過疎対策・人材育成・伝統継承を推進

伝統の継承と記録→メタバース導入！デジタル&リアルで地域を後世に「つなぐ」

『狩俣まるごとテーマパーク』の最大の目的は、地域活性化と人材育成です。狩俣の地域に昔からある伝統文化を、地域住民が主役となって再発見・再認識することで伝統の継承や記録の一助になることを期待し、さらにその行動が、生産性のある経済活動(収入)につながることを目的としています。まず琉球大学島嶼地域科学研究所と連携し、メタバース(仮想空間)導入を展開していきます。

狩俣まるごとテーマパーク ・空き家を活用しリトル台湾など特色ある地域形成へ



空き家の活用×メタバース×リトル台湾構想へむけ「空き家サミット」開催へ

2023年12月に開催された「空き家シンポジウム」では、多くの課題や提言がありました。今後、実現が想定される台湾直行便就航に伴い、台湾との友好的な関係構築を目指し、また特色ある地域活性化のシンボルとして「リトル台湾」を構築していきたいと考えます。



台中市内のリノベーション例(提供:ファンタジー社)

旧水道局の宿舎をリノベ、交流の拠点となった好事例

「空き家サミット」2024.5.22 開催予定→ブラジル・台湾・アメリカ・宮古島(狩俣)
テーマ「メタバースでつながるグローバルな地域社会の可能性」



現実空間と仮想空間を融合させることで、
地域社会が発展する

狩俣自治会の主な活動実績報告(2020.4~2023.12)



①2021年4月、狩俣幼稚園が3年ぶりに復活しました

・2020年5月ごろから、PTA・小学校と連携を取りながら、教育委員会や児童家庭課など何度も協議を重ねた結果、令和3年度から10名の入園希望者を確保し幼稚園が復活しました。



②集落内の外灯をすべて LED 化、経費削減につながりました

・2020年12月、集落内 86 外灯を LED に変更し、年間約85万円の経費削減につながり、太陽光発電を2021年6月から復活、電気料削減と災害時の非常用電源として使用しています。



③EV(電気自動車)のライドシェアで地球にやさしい活動を実践

・2020年12月~より高齢者・学生支援の相乗を3年間実施。約 4100 名の利用実績があり約 510 万円の経済効果と温室効果ガスの軽減がありました。



④日本初！テスラ製蓄電池導入でカーボンニュートラルを実践

・2021年6月より集落センターに太陽光発電システムと蓄電池を導入、クリーンな太陽光エネルギーを蓄電し、EV車の相乗りと組み合わせることでカーボンニュートラルを実践しました。



⑤市営団地の地元優先枠を市に要請、1世帯が入居しました

・2021年4月定期総会で特別決議された『市営団地の地元優先枠』を市長に要請し、2022年1月に1家族3名の狩俣出身者が入居しました。



⑥施設充実化しました→厨房&大型スクリーン&ツリーハウス

・2022年3月、県の補助金を活用し、集落センターの厨房施設を充実化、小学校内にツリーハウスを建設、大型スクリーンも設置し、子どもたちと地域の憩いの場として活用しています。



⑦全国過疎地域連盟会長賞を受賞しました

・2021年度全国過疎問題シンポジウム(高知県開催)において、地域の課題解決に取り組む優れた事例が評価され、「全国過疎地域連盟会長賞」を受賞しました。



⑧脱炭素先行地域に狩俣地域が選定されました

・2024年から5年間、脱炭素先行地域選定に伴い、大きな経済効果が期待されます。

狩俣自治会の主な活動予定(2024.1~2025.3)

①空き家対策を関係者と連携し最優先で取り組みます

・2024年1月現在、50件以上存在する空き家を、1軒でも解消するために、餅屋システムを活用し、地域在住の大工さんを中心に地元関係者と連携した取り組みを実践します。

1. 地域住民、在沖狩俣郷友会・八重山郷友会への協力依頼および説明会⇒複数回開催
2. JAL パックツアーによる関係人口の掘り起こし⇒2024.1.28 開催
3. 建築・設計関連大学の現地実践型研修の導入⇒2024.4.1 以降

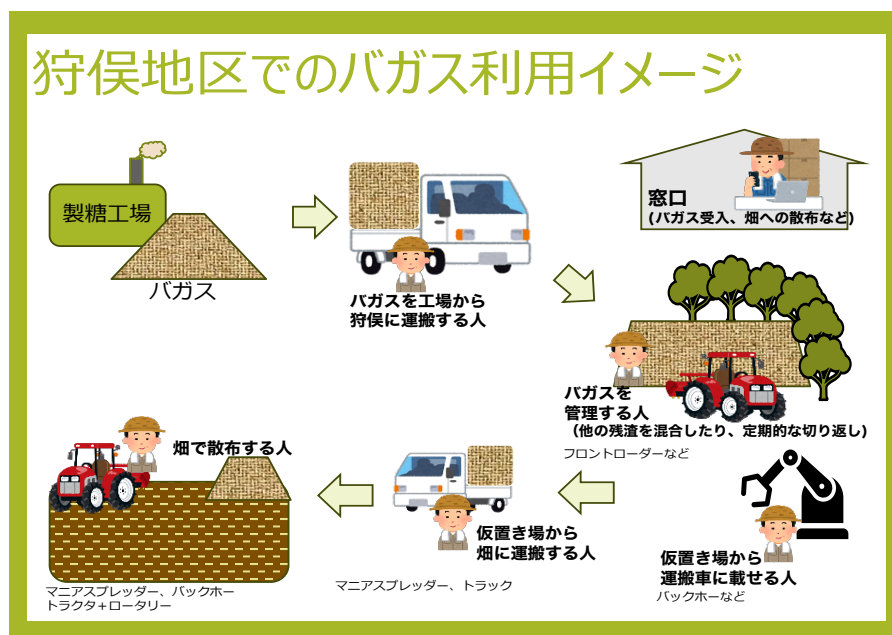
②脱炭素関連事業「農漁業 6 次産業化加工施設」を建設します

・2024 年度から 5 年間の脱炭素関連事業に伴い、生物多様性(ネイチャーポジティブ)の考えを導入した循環型加工施設を 2026 年運用開始目標に取り組みます。

- 2024.03 … 漁業生産グループ・農業関係者・行政機関・宮古島市との調整
2024.04 … 狩俣自治会 定期総会に提案(基本構想および予算関連)
2024 年度⇒ 建設予定地の決定および基本設計
2025 年度⇒ 工事着工 *2026 年度⇒ 年内竣工 年度内供用開始

③バガスなどを再利用した「土づくり施設」を運営します

・行政機関、沖縄製糖、関係者と連携した地域循環型堆肥センター(仮称)を建設予定
追い込み漁などから出る魚の骨やアラ、家庭生ごみ、除草した草や枝も再利用します



↑関係者(若手農家)を中心の法人化を視野に運営予定

狩俣自治会の主な活動予定(3大行事)+④冬至(ｼｮｶﾞ ｶﾏ)2024.12.21

① 海神祭 2024.6.9(日) ②敬老会 2024.9.15(日) ③豊年祭 2024.9.17(火)



-みえてきた今後の課題と改善点 → WG(ワーキンググループ)で目標達成を！-

過疎対策・人材育成・伝統継承 WG	・かりまた邑支援塾+かりまた共働組合と連携
狩俣まるごとテーマパーク WG	・支援塾+共働組合+琉大等+関係人口と連携
脱炭素推進地域 WG	・市エコ推進課+民間企業等と連携
こども病院誘致 WG	・専門機関+関係者+国・県・市・地域間と連携

-現状を把握し、課題解決にむけた取り組みを優先順位とスピード感をもって実践する-

私たちがこれからやりたいこと

- 空家家のリフォーム
病院の誘致で地域活性化
- みんなで遊べる公園をつくり
イベントをたくさんしたい
- ハイビスカスで花見
打ち上げ花火大会
餅つき大会がしたい
- 保育園・学童をつくる
歴史資料館がほしい
若い人を増やしたい
住む場所を作りたい
- 課題解決型エコハウスで
新しく住む場所を作りたい
EV車に乗りたい
農業を頑張りたい

「小さな目標」

先人が残したこの自然豊かな
狩俣と伝統文化を後世につな
ぐために私たちは自分ができ
る小さなことから始めます。

「small SDGs」

「狩俣版 SDGs」 → 目標設定 2025年3月

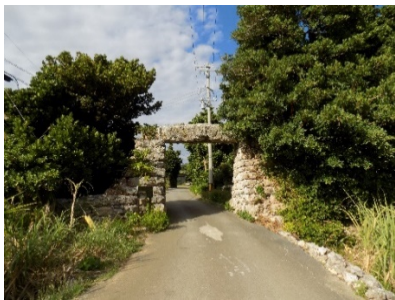
『あなただけの特別な居場所』がそこにある。狩俣はまるごと秘密基地になる・・・



* 誰にも教えたくない場所、まるで天橋立『パナブツ』

* 勝手に『プライベートビーチ』になってしまう

あなたと一緒に「small SDGs」 Go to karimata!



狩侯の象徴:東の大門(ア-マガヤ)



千代泉酒造所:廃業後は超プレミア?



仏壇が残る空き家はシロアリの住処…



12年ごとに開催される生まれ年合同同窓会 12歳から96歳まで参加するお正月恒例行事(写真提供:兎年 2022.1.2 撮影)



ガジュマルに覆われた空き家(20年以上)



海砂使用のためコンクリート爆裂が多い住宅



電動キックボードで集落案内ツアー実施中

これからの狩侯を一緒に作りませんか? 素敵な未来があなたを待っています…。